

第四次推進計画（改定版）における数値目標

項目		現況(2022年)	目標(2025年)	
		数値	数値	
<基本目標1>家庭、地域、学校等における取組の推進				
①市町村立図書館におけるボランティア団体数(人数)		529団体 (5,987人)	現況値以上	
②一斉読書等読書活動実施率	小学校	91.5%	99%	
	中学校	85.0%	95%	
	高等学校	30.1%	31%	
③一斉読書以外の読書活動推進の取組実施率		特別支援学校	81.5%	99%
④学校種ごとの不読率	小学校	10.0%	7%以下	
	中学校	16.7%	12%以下	
	高等学校	46.9%	40%以下	
<基本目標2>子供読書活動推進支援の一層の充実				
⑤公立図書館と学校図書館との連携実施率	小学校	85%	86%	
	中学校	65%	69%	
	高等学校	28%	30%	
	特別支援学校	33%	40%	
⑥市町村推進計画策定率		79.6%	85%	

- ①：市町村（名古屋市を含む）が設置する図書館において活動する、ボランティア団体の実数とその構成人数の合計
- ②：公立学校（名古屋市を除く）のうち、子供たちが同時に本を読む等、一斉読書等の活動を実施している学校の割合。目標は、第四次推進計画期間（2019～2022）中の最良値を上回る値（全校調査）
- ③：公立特別支援学校（名古屋市を除く）のうち、読書週間に実施する行事等、読書のきっかけ作りとなる取組を実施している学校の割合。目標は、2017年に調査を実施した計画現況値を上回る値、又は第四次推進計画期間（2019～2022）中の最良値を上回る値（全校調査）
- ④：公立学校（名古屋市を除く）の児童生徒のうち、1か月に1冊も本を読んでいない者の割合。目標は、2017年に調査を実施した計画現況値を上回る値、又は第四次推進計画期間（2019～2022）中の最良値を上回る値（抽出調査）
- ⑤：公立学校（名古屋市を除く）のうち、団体貸出し利用等による公立図書館との連携を実施している学校の割合（全校調査）
- ⑥：市町村（名古屋市を含む）のうち、「子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画」を策定している市町村の割合。目標は、今後計画を策定するか否かを検討している本県の市町村数を考慮して算出

第四次愛知県子供読書活動推進計画（改定版）注釈集

※1 子供

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）では子供について「おおむね十八歳以下の者をいう。」と規定している。本計画もこれによるものとする。

※2 不読率

1か月の間に1冊も本を読まなかった子供の割合。

※3 あいちの教育ビジョン2025

「自らを高めること」と「社会の担い手となること」を基本的視点とした「あいちの人間像」の実現を基本理念とする第四次愛知県教育振興基本計画。ふるさとあいちの文化・風土に誇りをもち、世界的視野で主体的に深く学び、かけがえない生命や自分らしさ、多様な人々の存在を尊重する豊かな人間性と「知・徳・体」にわたる生きる力を育む、あいちの教育を更に推進していくため、先のプランの基本理念を継承し、2021年2月に策定された。

※4 ブックスタート

市町村の保健センター等で行われる乳幼児健診の機会に受診した親子に対し、赤ちゃんと絵本に親しむことの大切さや楽しさを保護者に伝えながら、絵本や読み聞かせのアドバイスなどの資料を配布する事業。

※5 県内図書館横断検索「愛蔵くん」

ウェブサイト上で県内市町村立図書館等の蔵書を一度に検索できるシステム。2004年度の愛称公募により「愛蔵くん」に決定。

※6 専門図書館3館

愛知芸術文化センターアートライブラリー、愛知県産業労働センター（ウイंकあいち）労働関係情報コーナー、愛知県女性総合センター（ウィルあいち）情報ライブラリー。

※7 ブックトーク

子供や大人の集団を対象に、本への興味を引き出すよう工夫を凝らして、特定の主題について何冊かの本の内容の紹介を行う活動。

※8 子ども読書の日

4月23日。国民の間に広く子供の読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高めるために「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）第10条により制定された。

※9 文字・活字文化の日

10月27日。国民の間に広く文字・活字文化についての関心と理解を深めるようにするために「文字・活字文化振興法」（平成17年法律第91号）第11条により制定された。

※10 青少年によい本をすすめる県民運動 [強調月間:10月1日～10月31日]

愛知県及び愛知県青少年育成県民会議は、市町村及び関係機関・団体の協力を得て、①青少年向け優良図書目録の作成・配布、②啓発ポスターの作成・配布、③はがきによる読書感想文・感想画の募集、④児童図書等の学校、児童等への寄贈（協賛：愛知県書店商業組合）を実施。

市町村及び関係機関・団体は、本運動の趣旨に基づき、それぞれの地域の実情等に即して、青少年向け優良図書目録、啓発ポスター、機関誌等による広報、啓発を実施。

※11 愛知県子供読書活動推進大会

学校・図書館関係者、子供読書活動を行う関係者を中心とした研修会。2004年度「こころを育む読書のつどい」、2006年度「全国読書フェスティバル愛知大会」の開催を機に、定期的な全県的研修大会開催の要請が高まり、2007年度から開催。詳細は27ページ及び43ページを参照。

※12 愛知県子供読書活動実態調査

「第四次愛知県子供読書活動推進計画」の効果と課題を明らかにし、本県の子供の読書活動について方向性を定めていくことを目的に、2022年11月1日から2022年11月30日まで、教育委員会が無作為抽出した県内小・中・高等学校を対象に行った標本調査。14,690人対象。

※13 学校図書館の現状に関する調査

「第四次愛知県子供読書活動推進計画」の効果と課題を明らかにし、本県の子供の読書活動について方向性を定めていくことを目的に、2022年10月に県内の公立小・中学校、高等学校、特別支援学校（名古屋市立は除く）を対象に行った調査。本調査は、文部科学省が5年に一度実施している調査（次回調査は2025年）であるが、第四次推進計画の主要な取組の進捗状況を確認するため、項目を絞り県教育委員会が独自に実施。

※14 ウェルビーイング（Well-being）

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。

※15 家読（うちどく）

子供を中心に家族で同じ本を読み、読んだ本の感想などを話し合っ、コミュニケーションを深めることを目的にした読書運動。

※16 おはなし会

図書館の子供に対するサービスの一つ。子供と本の世界を結び付ける手段として、子供を集めて読み聞かせやストーリーテリング（語り手が物語を覚え、本を見ずに語って聞かせること）などにより、お話を聞かせる集まり。

※17 地区家庭教育推進協議会

県内6地区で開催。各地域の家庭教育関係者が一堂に会し、子育て支援者による交流活動や、家庭教育推進地区の活動発表、情報交換などを実施。

※18 児童図書室

公立図書館が、児童サービスを行うために図書館内に設置した、絵本・児童書・紙芝居など子供のために作られた資料を集めた部屋。

※19 レファレンス

利用者の問合せに応じたり、本に関する情報を提供したりする業務。

※20 ティーンズコーナー

青少年に読書の楽しさを知ってもらうために設置された、青少年を対象とした図書・雑誌・新聞などを集めたコーナー。

※21 マルチメディアDAISY

音声にテキスト及び画像をシンクロ（同期）させ、ユーザーは音声聞きながら抜粋されたテキストを読み、同じ画面で絵を見ることができる。利用対象者は視覚障害者に限らず、学習障害者やディスレクシア（小児期に生じる特異的な読み書き障害で、知的な遅れや視聴覚障害がなく、十分な教育歴と本人の努力があるにもかかわらず、知的能力から期待される読字能力を獲得することに困難がある状態）などの読むことに障害のある全ての人に貢献することができる。

※22 LLブック

LLとは、「やさしく読みやすい」を意味するスウェーデン語のLattlastの略で、知的障害や学習障害のある人などが読みやすいよう、絵や写真などを使って分かりやすく書かれた本。

※23 ブックリスト

読書への興味・関心を喚起するために、対象年齢や主題等、ある基準により選択した資料を紹介する簡便な目録。

※24 ヤングアダルト層

主に中学生・高校生を中心とした10代の読者あるいは利用者を、児童と成人の中間に位置し独特の配慮を要する利用者層として出版界・図書館界で意識して呼称するときに使う用語。

※25 ヤングアダルトサービス連絡会

県内の公立図書館のヤングアダルトサービス担当者が連携し、ヤングアダルトサービスに関する情報を広く収集し周知することを目的に設立。情報交換や研修、ブックガイドの発行等を主な活動とする。平成20年度より活動開始。

※26 点字図書館

視覚に障害のある人々のために、点字及び録音図書を作成又は収集、整理、保存し、貸出し及び閲覧業務を主とする図書館で、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）に基づく厚生援護施設。

※27 サードプレイス

自宅（ファーストプレイス）でも職場・学校（セカンドプレイス）でもない、心地のよい第3の場所。

※28 児童サービス研修

愛知図書館協会（※30参照）が主催する児童サービス経験の浅い人を主な対象とした研修で、公立図書館等で児童サービスを行うための必要な基礎知識、技術の習得を目標とする。

※29 国立国会図書館国際子ども図書館

国立国会図書館の支部館として設置されており、納本制度による、いわゆる保存図書館としての役割を持っている。児童書のナショナルセンターとして、児童へのサービスを行う図書館活動を支援し、子供の出版文化に関する情報の提供を行っている。また、学校図書館に対する支援の一環として、外国語の原書を含む児童書等約40冊を貸し出す「学校図書館セット貸出し」を行っている。

※30 愛知図書館協会

図書館事業の進歩発展を図り、教育と文化の振興に寄与することを目的に設立。読書運動の推進、会報の発行、研修事業の実施を主な活動とする。

※31 愛知県公立図書館長協議会

愛知県内の公立図書館相互の連絡を密にし、図書館活動の推進を図ることを目的に設立された、県内の公立図書館長で構成される組織。県内公立図書館間の連絡調整のほか、全国公共図書館協議会との連絡協力、図書館職員の研修、県内公立図書館の実態調査の実施を主な活動とする。

※32 生涯学習情報システム「学びネットあいち」

生涯学習機関・団体等有する生涯学習に関する情報を一元的に提供するシステム。



<https://www.manabi.pref.aichi.jp/>



※33 ウィキペディアタウン

町歩きイベントやワークショップを通して、その地域の文化財、名所、歴史的イベント、著名人などの情報を記事にまとめ、インターネット上の百科事典「ウィキペディア」に掲載し、更に記事へのアクセスが容易になるようにQRコード入りの掲示板等を設置するような取組。

※34 児童館

児童福祉法（昭和22年法律第164号）に基づいて、児童に健全な遊びを提供してその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に設置された施設。

※35 愛知県生涯学習推進センター

生涯学習に関する学習相談、県が養成した地域指導者の活動支援などを広域的・専門的に展開しており、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団が運営している。

※36 あいちNPO交流プラザ

NPO活動の促進を目的とし、NPOの交流・活動・情報発信及び県と様々なNPOとの協働推進の拠点となる施設。

※37 子どもゆめ基金

未来を担う夢を持った子供の健全育成を推進するため、民間団体が実施する自然の中でのキャンプや科学実験などの体験活動、絵本の読み聞かせ会といった読書活動などに対して、独立行政法人国立青少年教育振興機構が助成金を交付する事業。

※38 PISA（OECD生徒の学習到達度調査）

義務教育修了段階の15歳児（高校1年生）を対象とした調査。知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを評価。読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、2000年以降、3年ごとに調査を実施。2000年、2009年及び2018年には読解力を中心分野として実施。2018年調査には、79か国・地域（OECD加盟国37か国、非加盟42か国・地域）から、約60万人の15歳児が参加。日本では、全国の高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校の1年生のうち、国際的な規定に基づき抽出された183校、約6,100人が調査に参加。

生徒質問調査から、日本の生徒は「読書は、大好きな趣味の一つだ」と答える生徒の割合がOECD平均より高いなど、読書を肯定的にとらえる傾向にある。また、こうした生徒ほど読解力の得点が高い傾向にある。

※39 朝の読書タイム

児童生徒の読書活動の活性化を図るために、学校が読書に親しむための時間として設定しているもので、特に始業前の10分程度の時間を充てる学校が多い。

※40 愛知県学校図書館研究会

県内小・中・高等学校及び特別支援学校の学校図書館教育の充実・発展を目的とした研究組織。1963年に設立されて以来、年1回、愛知県学校図書館研究大会を開催し、学校図書館の管理運営、利用指導、読書指導等について研究協議を行っている。

※41 司書教諭

学校図書館法（昭和28年法律第185号）で学校に配置することが義務付けられている学校図書館の専門的職務をつかさどる主幹教諭、指導教諭又は教諭。学校図書館資料の選択・収集・提供や子供の読書活動に対する指導、情報活用能力育成指導、さらには、学校図書館の利用指導計画を立案し、実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担う。

※42 学校司書

学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員。2014年6月「学校図書館法」（昭和28年法律第185号）の一部改正により、学校に置くよう努めることとされた。

※43 学校図書館図書標準

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、学級数に応じて設定した標準冊数のことで、1993年3月に国が定めたもの。

例： 小学校で学級数が7～12学級の場合、7学級であれば5,560冊が標準冊数となり、1学級増えると480冊ずつ増加
中学校で学級数が7～12学級の場合、7学級であれば7,920冊が標準冊数となり、1学級増えると560冊ずつ増加
視覚障害者に対する教育を行わない特別支援学校（小学部）で学級数が7～12学級の場合、7学級であれば3,032冊が標準冊数となり、1学級増えると96冊ずつ増加。

※44 読書会

教人で集まり、本の感想を話し合う活動。その場で同じ本を読む、事前に読んでくる、1冊の本を順番に読む等様々な方法がある。この取組により、本の新たな魅力に気づき、より深い読書につなげることができる。

※45 ビブリオバトル

それぞれが読んで面白いと思った本を持ち寄り、その本の面白さについて順番に5分程度で紹介し、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決めていく書評会のこと。ビブリオバトルの効果として、ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができること、自ら本を選ぶ力・語る力が育つこと、読んでみたいと思える本に出会う機会が増えることなどが言われている。近年では、全国の大学、地方公共団体、図書館などで広がりつつある。

※46 社会保障審議会

厚生労働省に設置された審議会の一つ。厚生労働相の諮問機関であり、社会保障制度全般に関する基本事項や各種の社会保障制度の在り方について審議・調査し、意見を答申している。また、児童の福祉に資する出版物を児童福祉文化財として推薦している。

※47 生涯学習情報誌「まなびあいち」

生涯学習に関する講座・講習会、イベント情報、「学びネットあいち」ネットワーク機関や読書ボランティアとして活動している団体・個人の紹介などを行う情報誌。年4回（6、9、12、3月）、1回につき8,000部発行している。

※48 愛知県子供読書活動推進協議会

子供の読書活動を総合的に推進し、県、市町村、図書館、学校、民間団体等の連携・協力体制の整備、協働の在り方や方策について検討するため、幅広い分野の関係機関・団体で構成された協議会。

※49 文部科学省からの都道府県及び市町村における「子供読書活動推進計画」の策定に係る通知

地方公共団体が教育基本法（平成18年法律第120号）第17条第2項に定める教育振興基本計画等の計画を定めており、その中の子供の読書活動の推進に関する部分が推進計画に該当すると地方公共団体の長が判断した場合には、当該部分をもって推進計画に代えることができる。

参 考 資 料

1 第四次愛知県子供読書活動推進計画における数値目標の進捗状況

<基本目標1> 家庭、地域、学校等における取組の充実

◆ 地域における取組の推進

○ 市町村立図書館におけるボランティアの受入状況

年 度	2017年度 (計画現況値)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標 (2023年度)
団 体 数	538団体	555団体	555団体	534団体	523団体	529団体	現況値以上
人 数	6,298人	7,041人	6,888人	6,083人	6,024人	5,987人	現況値以上
市町村の割合	96%	96%	96%	94%	94%	96%	100%

◆ 学校等（幼稚園・保育園を含む）における取組の推進

○ 全校一斉読書実施率

(2018, 2019, 2021年度は調査未実施)

年 度	2017年度 (計画現況値)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標 (2023年度)
小 学 校	98.6%	—	—	97.5%	—	91.5%	現況値以上
中 学 校	95.1%	—	—	83.7%	—	85.0%	現況値以上
高等学校	26.7%	—	—	24.8%	—	30.1%	50%

○ 全校一斉読書以外の読書活動推進の取組実施率

(2018, 2019, 2021年度は調査未実施)

年 度	2017年度 (計画現況値)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標 (2023年度)
特別支援学校	71.0%	—	—	62.6%	—	81.5%	99%

○ 学校種ごとの不読率

(小・中学校 2018, 2019, 2021年度調査未実施。抽出調査)

年 度	2017年度 (計画現況値)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標 (2023年度)
小 学 校	6.5%	—	—	7.3%	—	10.0%	3%以下
中 学 校	12.3%	—	—	13.0%	—	16.7%	7%以下
高等学校	45.9%	41.0%	39.5%	45.7%	43.9%	46.9%	33%以下

<基本目標2> 子供読書活動推進支援の一層の充実

○ 公立図書館と学校図書館との連携実施率

(2018, 2019, 2021年度は調査未実施)

年 度	2017年度 (計画現況値)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標 (2023年度)
小 学 校	86.0%	—	—	78.1%	—	84.6%	95%
中 学 校	68.8%	—	—	56.0%	—	64.7%	75%
高等学校	18.0%	—	—	24.2%	—	27.9%	30%
特別支援学校	29.0%	—	—	38.3%	—	33.3%	40%

○ 市町村子供読書活動推進計画策定率

(2020年度調査未実施。)

年 度	2017年度 (計画現況値)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標 (2023年度)
策 定 率	72.2%	74.1%	75.9%	—	75.9%	79.6%	91%

※ 学校等のデータは、名古屋市立、国立、私立を除いた県内の学校を対象とした。

2 愛知県子供読書活動推進協議会開催要項

(目的)

第1 愛知県子供読書活動推進計画（以下「推進計画」という。）に基づき、子供の読書活動を総合的に推進し、県・市町村、図書館、学校、民間団体等の連携・協力体制の整備、協働のあり方や方策について検討するため、愛知県子供読書活動推進協議会（以下「推進協議会」という。）を開催する。

(協議事項)

第2 推進協議会は、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 子供の読書活動に関する施策について、総合的かつ効果的な企画及び推進に関すること。
- (2) 子供の読書活動に関する施策について、関係機関・団体等との連携・協力、協働のあり方に関すること。
- (3) 子供の読書活動に関する状況調査に関すること。
- (4) 現行の推進計画及び新たな推進計画に関すること。
- (5) その他、子供読書活動を推進する上で必要な事項に関すること。

(構成)

第3 推進協議会は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者で、教育長から委嘱された者で構成する。

2 委員の任期は1年（ただし、年度の途中で就任する場合は、当該年度の3月末日まで）とし、再任を妨げない。

(会長)

第4 推進協議会に会長を置き、委員のうちから互選する。

2 会長は、会務を総理する。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、委員のうちから互選された委員がその職務を代理する。

(会議)

第5 推進協議会は、教育長が招集する。

2 推進協議会は、会長が議長となる。

(専門部会)

第6 推進協議会に、その協議事項に係る専門的事項を調査審議するため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、推進協議会委員のうち、会長が指名する者で構成する。

3 専門部会に部会長を置き、部会長は会長が務める。

4 専門部会は、部会長が招集し、部会長が議長となる。

(庶務)

第7 推進協議会の庶務は、県教育委員会あいちの学び推進課において処理する。

(雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

この要項は、平成16年7月7日から施行する。

附則

この要項は、平成20年6月12日から施行する。

附則

この要項は、平成22年6月9日から施行する。

附則

この要項は、平成23年5月31日から施行する。

附則

この要項は、平成25年4月12日から施行する。

附則

この要項は、平成28年4月5日から施行する。

附則

この要項は、令和5年4月1日から施行する。

令和5年度愛知県子供読書活動推進協議会委員

区 分	職 名	氏 名
学識経験者	椋山女学園大学国際コミュニケーション学部教授	堀田 あけみ※
図書館関係者	愛知県図書館長	清水 俊治
	犬山市立図書館長	高木 公美子
市町村関係者	知立市教育委員会教育長	宇野 成佳
学校関係者	愛知県学校図書館研究会会長（犬山市立東小学校長）	児島 千尋
	愛知県学校図書館研究会副会長（県立津島高等学校長）	川手 文男
民間団体	愛知県書店商業組合理事長	春井 宏之
	東海子どもの本ネットワーク世話人	山口 陽子
	ビブリオバトル普及委員会アドバイザー	岡野 裕行
保護者	愛知県公立高等学校PTA連合会副会長	本田 裕未
県民文化局	社会活動推進課長	本田 靖
福祉局	子育て支援課長	今宮 裕司

（委員12名 ※は会長）

令和5年度愛知県子供読書活動推進協議会専門部会委員

学識経験者	椋山女学園大学国際コミュニケーション学部教授	堀田 あけみ
学校関係者	愛知県学校図書館研究会副会長（県立津島高等学校長）	川手 文男
民間団体	愛知県書店商業組合理事長	春井 宏之

（協議会委員の中から3名）



【子供の皆さんへ】

たくさんの方が関わってできた本は「なるほど！」や「すてき！」が詰ま^つっていて、みんなにいろいろなことを教えてくれます。

本よりも面白^{おもしろ}いものは、他にあるかもしれないけれど、楽しくて、ためになる読書をたくさんしてください。

＜高校生の皆さんへ＞

高校生の皆さん、読書習慣がある生徒は、読書をしない生徒に比べ文章読解力が高い傾向にあるという調査結果が出ていることを知っていますか。勉強や部活動、他にも興味・関心のあることが多くあり、読書に費やす時間は限られていると思いますが、楽しみながら様々な世界や人生に触れ、自分の未来を切り拓く、そんな読書に親しむ機会を設けてみませんか。

【大人の皆様へ】

読書は単なる娯楽ではなく、子供がより良く成長し、立派な社会人となるために大切なものとして子供に与えられるべきものです。それと同時に大人の皆様にとっても、新たな生きる力を得る糧として、心の癒やしとして必要なものではないでしょうか。「子供は親の背中を見て育つ」と言います。親だけではなく、大人のやることは子供のやることにつながっています。大人も時間を作って本を読み、本をテーマに子供と話をしてみませんか。

＜読むことに困難のある子供に関わる大人の皆様へ＞

本を読むことに対する様々な困難に関係なく全ての子供たちは、新しいことを知りたい、感動を味わいたいなど、それぞれの理由で読書を求めています。読む、聞く、触れる、楽しみ方のコツを伝えるなどの方法で、一人一人の子供に応じた誰もが楽しめる読書を目指し、マルチメディアDAISYの整備等できる限りの支援を用意していきます。皆様も子供たちの内なる声に応えてみませんか。

＜日本語以外を母語とする子供に関わる大人の皆様へ＞

二つ以上の言語に触れる子供は、言語体験が豊かになり、成長に良い影響を与える可能性を持っています。読書は、日本語以外を母語とする子供の言葉の発達に不可欠であり、集中して聞く力や、想像力も育てます。大人の皆様の得意な言語（母語）で書かれた本を読んであげましょう。読書を通じて、子供と大人のコミュニケーションの時間を作ってみませんか。

子供たちが、本のある暮らしを通じて、心豊かで、健やかに成長していけるよう、この計画を基に皆様で力を合わせて歩んでいきましょう。

未来へつなく、
いつも本のある暮らし

愛知県教育委員会
あいちの学び推進課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052-954-6781

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/aichi-manabi/000027044.html>

